

# ～リニア時代を見据え、地域産業の更なる発展を支える「知の拠点」づくり～

ものづくりの高度化・高付加価値化

## (公財)南信州・飯田産業センターの移転と機能強化

- ・技術の高度化、新たな分野への挑戦を支援する研究開発機能
- ・企業の研究開発を支援する公的試験場としての試験・検査機能
- ・高い技術力を持つ人材の育成を進める機能
- ・インキュベート機能、情報発信機能、異業種連携の推進

### 【課題】

- ・新分野の研究開発機能と専門的な人材育成
- ・(公財)南信州・飯田産業センターの狭隘化・老朽化
- ・公的試験場の機能強化の必要性

### 【連携】

大学

広域  
(三遠南信等)

平成24年 (公財)南信州・飯田産業センター



人材育成支援

販路開拓支援

EMCセンター  
工業技術センター

新産業創出支援

地場産業高度化  
ブランド化支援

航空宇宙産業  
クラスター

メディカル・  
バイオクラスター

### 【社会情勢の変化】

- ・グローバル化の進展 ・海外シフトによる国内空洞化
- ・リーマンショック、東日本大震災等

### 【地域を取り巻く環境変化】

- ・南信州定住自立圏形成協定締結 ・三遠南信地域広域基本計画策定
- ・公益法人の見直し

## (財)飯伊地域地場産業振興センター

設立：昭和58年 長野県・市町村、企業が出資し法人設立  
 目的：地場産品の情報発信・展示・販売

## 1. (公財)南信州・飯田産業センターについて

○設 立 : (財)飯伊地域地場産業振興センター

(昭和58年 長野県・市町村、企業が出資し法人設立)

目 的:地場産品の情報発信・展示・販売

○社会経済情勢の変化に対応し、専門人材を配置して地域産業育成機関としての役割を強化

○公益財団法人へ (公財)南信州・飯田産業センターへ組織変更 (平成24年)

目 的:地場産品の情報発信・展示・販売のみならず、以下の取り組みを重点に、  
地域産業の支援機関としての役割を担う

○取組内容

- ・新産業創出支援 : 航空宇宙産業クラスター、メディカル・バイオクラスター
- ・地場産業の高度化・ブランド化支援 : 食品産業クラスター、水引・菓子等のブランド力向上
- ・人材育成支援 : 飯田産業技術大学、お仕事キッズタウン
- ・販路開拓支援 : ビジネスネットワーク支援センター(ネスクイイダ)

## 2. 工業技術センターについて

### ○ 設 立

昭和62年

### ○ 目 的

工業製品の測定試験、各種測定機器の校正、製造時のトラブル対策、新規事業、新製品開発等に対する技術支援、相談等を行い、中小企業の技術向上を図る。

### ○ 取組内容

依頼試験、機器貸出、技術相談

## 3. EMCセンターについて

### ○ 設 立

平成10年

### ○ 目 的

製品から出ているノイズのレベルを測定したり、電磁波を照射したとき、製品が誤動作しないか試験評価を行い、電磁波を出さない、電磁波の影響を受けない製品開発に寄与する。

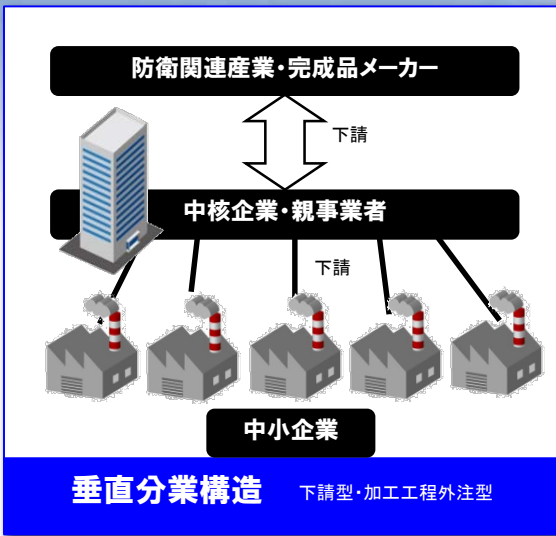
### ○ 取組内容

依頼試験、自主測定

# 航空宇宙産業を選択した理由、これまでの取り組みと成果

2006年スタート

2006年スタート

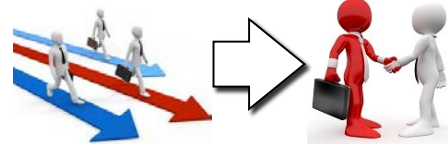


・グローバル化  
・海外シフト

・付加価値低下  
・国内空洞化

生き残り策は？

## 飯田航空宇宙プロジェクト設立



## 協力風土の醸成

- アントレプレナー(市民起業家)の活躍
- 円高や新興国の台頭に対抗できる産業づくり
- 域内大手事業所による改善研究会の設立

## 飯田産業技術大学の創設

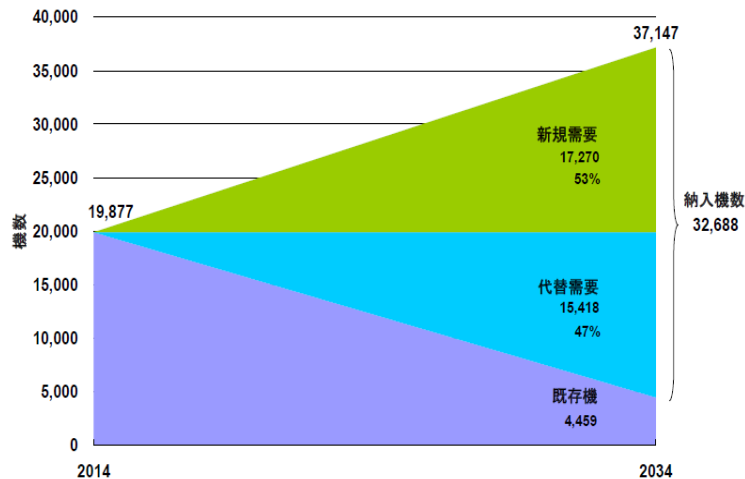
地域内従業員のレベルアップ



## 働きながら学ぶ風土の醸成

- 世界に通用する産業人材の育成
- 各階層へ知識を浸透させる通年プログラム
- キャンパスレス大学

ジェット旅客機の需要予測結果



出典(財)日本航空機開発協会

## 選択した理由

- 産業としての特徴
  - ・ 5%/年の成長が見込まれる長期成長産業である。
  - ・ 多品種、少量生産
- 地域としての強み
  - ・ 精密機械工業の集積地 → 航空機産業との技術類似性
  - ・ 日本の航空機産業の中心である中京圏に近い。
  - ・ 中核企業の存在
- 参入効果
  - ・ 高い技術へのチャレンジと波及効果
  - ・ 高度な品質保証と体質強化

## これまでの成果

- 信頼・協力風土・連携体制の構築
- サプライチェーンへの対応
  - (一貫生産体制の構築)
  - 航空宇宙産業クラスター拠点工場の建設
- アジア№1航空宇宙産業クラスター形成特区参入

# 産業振興に寄与する『知の拠点』の核の形成

## 航空機システム・装備品事業分野への挑戦

部品供給から航空機システム・装備品事業への展開

飯田・下伊那地域



### 「信州大学航空機システム 共同研究講座」の設置

#### 【目的】

・高度な知の集積と人材の育成

- 民間資金の活用による大学の研究・人材育成拠点の設置
- 専任教授、専任教員、事務員を配置
- 航空機システム・装備品分野の新たな研究開発

#### 【課題】

・高度技術者の育成、新分野の研究開発施設の不在

#### 【地域資源】

・飯田航空宇宙産業クラスター

### 公的試験場としての 機能強化

#### 【目的】

・研究開発を支援する試験、評価機能の強化  
・工業技術センター、EMCセンターの機能拡充

- 施設の拡張、電波暗室の新設(3m、10m)
- 試験・検査機器の拡充、更新整備
- 相談支援機能、評価機能の強化



#### 【課題】

・新たな研究開発を支援する試験、評価機能の能力不足

#### 【地域資源】

・工業技術センター ・EMCセンター

『知の拠点の核』



# 公的試験場としての機能強化

## 工業技術センター・EMCセンターの移転・機能強化について

### ○ 移転・機能強化の概要

- ・ (公財)南信州・飯田産業センターの移転に併せて、工業技術センター及びEMCセンターを移転するとともに、試験検査機器の拡充・更新・整備を進め、公的試験場としての機能を強化する。

### ○ 試験検査機器整備の先行実施

- ・ 信州大学航空機システム共同研究講座をはじめ、新たな研究開発を支援するため、また、現時点で地域内企業の研究開発に対応できていない能力不足を解消するため、試験検査機器の整備を実施する。
- ・ 整備する機器の概要

※ 14市町村共同で地方創生先行型交付金上乗せ交付分を申請 1.8億円

①耐ノイズ感受性試験評価装置 ②高精度寸法・真円度評価装置

③温度ストレス試験装置 ④高精度引張・圧縮試験機

※ 信州大学共同研究講座の設置に向けた準備負担金1千万円を含む